

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	3270100807		
法人名	ティー・シー・プラネット株式会社		
事業所名	グループホーム聖丘		
所在地	島根県松江市上乃木2丁目29-11 (電話) 0852-22-2725		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成19年12月14日	評価確定日	平成20年2月5日

【情報提供票より】(19年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月14日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	3人 非常勤 7人 常勤換算 8.25人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	15,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	8名	男性	4名	女性	4名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 78.7歳	最低	69歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江記念病院・河原歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

二階建ての民家をそのまま転用した住宅街の一角にあるホームである。職員は、家族と日常的に話しをしやすい雰囲気づくりを心がけている。日々の生活も一方的に介護する側・される側にならないように、利用者は職員とともに自分のできることは率先して行い、職員は利用者の自立を支援しながら、ゆったりと家庭的な助け合いの生活をしている。居室は洋室・和室とあり、利用者にとって馴染めそうな家庭的なホームとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善シートを作り、改善努力をしている。手すり設置・金銭管理・緊急時対応・研修・物品管理・苦情受付明示は改善している。「市町村との関わり」は、今後引き続きの改善項目である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員ともに、自己評価をサービス確認のよい機会ととらえて熱心に取り組んでいる。全職員が白紙の自己評価票の各項目に記入しながらサービス内容をチェックし、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの生活状況報告や、行政側からの情報交換等が主となっている。開催数も少なく不定期開催となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2カ月に1回、家族への通信を出している。日頃から家族と何でも話し合えるよい関係を築いている。今後、家族アンケートの実施や、家族への運営推進会議の報告などが検討中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域交流を望んでいるが、今のところ交流機会が少ない。今後もホーム側からいろいろな方法で交流希望を発信し、グループホーム聖丘のことを理解してもらえるように検討中である。散歩時の挨拶等を心がけている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	3年前にできた理念は、利用者の人生を思いやる生活支援を目指しているが、地域密着型としての内容が反映されていない。	○	地域密着型としての、分かりやすい表現にして頂きたい。さらに「聖丘」独自の理念であることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームのあちこちに理念を貼り、日常的に統一したケアができるようにしている。職員は理念を日々確認しながら、利用者の生活支援にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し清掃活動等に参加している。ホームの祭りは地域の方に参加してもらっている。自治会通信でボランティア募集や、交流をはたらきかけているが、具体的な活動はこれからである。	○	今後も、ホーム側からの情報発信をしながら、老人会や公民館活動に参加できるように、できることからの計画作りと実践を期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が記入提出し、管理者がまとめたものを回覧確認する方法で実施している。外部評価結果は改善シートを作成して改善に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は5月、9月に開催した。メンバーには地域の福祉担当者や民生委員、市の介護保険担当者も加わっているので、話しやすい雰囲気である。会議内容は職員間で確認している。	○	2ヶ月に1回の開催を期待したい。会議での話題を大切にし、内容がホームの運営に活かされることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者が運営推進会議のメンバーでもあり、同業者同士の集い等の支援や、入居時にホームに来てもらったりしている。グループホーム関係の情報提供等を受けている。	○	さらに、栄養チェックやホーム運営上の悩み等を、日常的に相談して行政のアドバイスを受け、サービスの向上につながるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の様子を伝えたり、金銭管理の確認をとっている。健康等についての連絡は都度、電話連絡して対処している。2ヶ月に1回、家族に写真入りの個人通信を送り、管理者からのコメントをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望をもらうために玄関に要望書をおいてあるが利用されていない。面会時に言えないことを収集するために、アンケートなども計画されている。家族会はない。	○	計画されている家族アンケートの実施を期待したい。家族が参加しやすい機会づくりから取り組んで家族同士の輪をつくり、意見・要望の収集ができるように努力して欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は全職員の気持ちを聞き、離職等がないように配慮している。新任研修も大切にされ、利用者顔に覚えてもらってから個別ケアに関わるようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修一覧で希望をとり参加できるようにしている。全職員が「自己目標」を作り、自分のサービス内容の確認や管理者からのアドバイス等を受けている。	○	年間の計画作りを検討中なので期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者と管理者は、小規模多機能連絡会（ことぶき福祉会～出雲）に参加している。参加後、ホーム内で参加報告をして共有を図っている。同系列の「遊空間」とは、日常的に交流し、行事等も合同で開くことも定着化している。	○	今後は職員にも参加の機会をつくり、サービス向上に役立てて欲しい。また、系列外のグループホームとの交流も計画されるよう望みたい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人や家族に見学してもらったり、遊びにきてもらい、ホームに慣れてからの入居となっている。入居後も家族に面会してもらい、生活の様子を伝えたりして、利用者・家族・職員の信頼関係を築くように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできることをしてもらい、季節をたのしむ行事（ちまき・干し柿等）は、職員が教えてもらうことも多い。花壇の手入れ・洗濯物干し・食事の準備や片付け等は日常的に協力しあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の個別シートを作り、日常的な行動と言葉や気づきを記録し、家族からも情報を得ながらケアに活かしている。利用者にストレスがありそうな場合には、家族との連携で外出や一時帰宅等を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別シートをもとに、本人と家族にモニタリングして職員と相談し、家族の確認を得ながら介護計画を作成している。内容は身体機能的なことが中的になっている。	○	さらに、生活歴や趣味を活かされるような介護計画を期待したい。個別シートは分かりやすい工夫が欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直している。状態が変われば、その都度見直している。	○	見直しは、1ヶ月に1回実施されることを望みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合が悪い時の受診や外出支援をしている。医療連携で24時間対応ができる。居室が空いていればショートステイ受入可能である。利用者に帰宅願望がある場合には、家族の協力を得て、帰宅や外泊の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診をしている。協力医には2週間に1回往診してもらい、訪問看護ステーションからも定期的に来てもらっている。調査中に、体調が悪くなった利用者があったが、すぐに看護師が来て対処されていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでできることと、できないことを家族に説明している。終末期には、医療機関や訪問看護ステーションと連携対応ができるようにしている。	○	終末期についての方針づくりを、関係者で開始して頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかに、丁寧な言葉遣いで利用者に接していて、利用者は安心感をもっている。個人情報もきちんと管理されている。居室に入る時も、職員は丁寧に挨拶していて穏やかな雰囲気である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の基本的な流れができているが、個々の体調に合わせて自由に過ごすこともできる。テレビや年賀状書き、雑談、時にはピアノや歌などをたのしむこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は下ごしらえを手伝ったり、食卓の準備等を慣れた手つきでこなしていた。みんなでおいしく頂き、片付けや食後の歯磨きも一連の動作となっている。食材の調達はマーケットへの移動手段がないため、生協を利用している。	○	マーケットに食材選び等利用者と共に行けるように、移動手段の確保を工夫して欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴は可能だが、冬は1日おきがいいという方もある。夏にはシャワーなども勧めながら、体調や希望を確認して入浴支援をしている。	○	日々の生活の中で、利用者に声をかけ希望を聞きながら、毎日でも夜間でも入浴できるような支援を期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	最高齢の方はお元気で、年賀状印刷もデパートへ行き注文し、居室で宛名書きをしておられた。花壇の手入れや、食事作り、洗濯物たたみ等々楽しみごとにも様々で、個々への支援ができています。	○	男性の力が発揮できる出番作りを考えているので期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩いてマーケットに買い物散歩や、時には近くの国療の売店にも出かけている。短歌教室へ通う方には関係者に送迎依頼をし、帰宅願望の方には、家族に相談して帰宅や外泊の機会づくりもしている。	○	今後、行動範囲を広げるためにも、移動手段についての検討を望みたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路が近いのと、ホームは個人の住宅をそのまま利用しているので、玄関チャイムと階段センサーを設置している。音がしたら、職員がすぐに見守るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導を受けての通報・消火器取り扱い・避難経路確認等の訓練をしているが、地域住民協力の避難訓練は行っていない。ミーティングでは、マニュアルを確認しあっている。	○	非常時には混乱が予想されるので、地域の方々の協力を得た避難訓練等を実施することが望ましい。備蓄用品は、三日間程度の確保が望ましい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日記録され、ケアに活かされている。栄養士の献立チェックは、以前は半年に1回程度受けていたが、現在は受けていない。	○	栄養源や食事バランスは、専門家の指導を定期的に受けることが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には調理コーナーと食卓、大型のこたつコーナーがあり居心地よさそうな雰囲気がある。手作りカレンダーやクリスマスツリーも季節感がある。段差がある部分は実状に応じて改善している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室・和室があり、各居室はそれぞれ違う趣と広さで個性的な空間となっている。居室には、こたつ・テレビ・仏壇・人形・植木鉢・写真などがあり、利用者の穏やかな生活を思わせる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。